

「年金と投資に関する意識調査」結果の各論

今回新たに追加した設問「インパクト投資」と「ESG 投資」との比較

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構
特任研究員 三木隆二郎,CFA

はじめに

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構（東京 都港区、理事長 高山憲之）は、本年 8 月 25 日に「年金と投資に関する意識調査結果」を公表した¹。今回新たに、インパクト投資の設問を追加したのでその結果を各論として、ESG 投資、SDGs との関連で考察する。

なお、ここでは当意識調査で用いた定義を用い、インパクト投資を「収益を確保しつつ、環境問題や社会問題の解決も追求するという考え方の投資」、ESG 投資を「環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資」としている。

1. インパクト投資と ESG 投資との比較

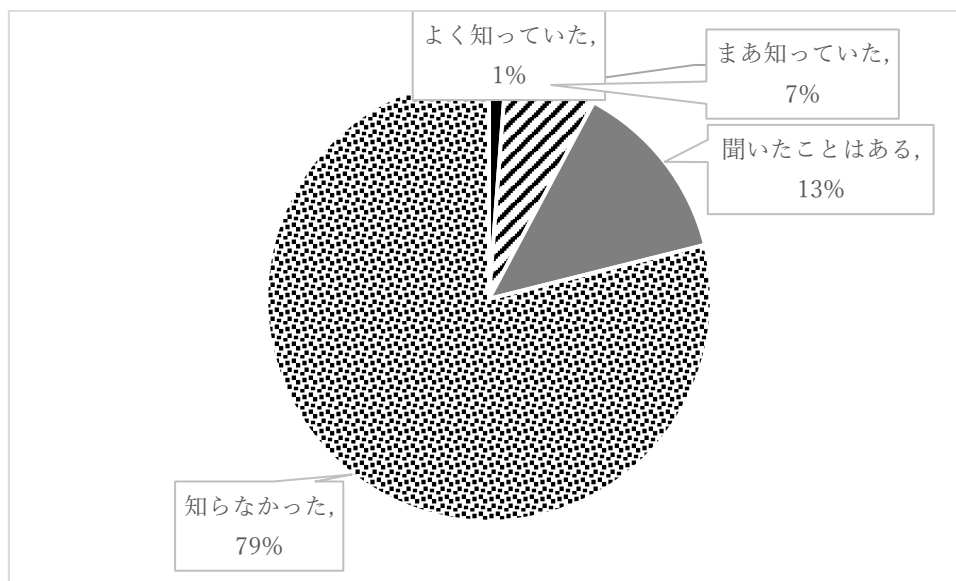
1-1 インパクト投資の認知度（問 27-1、ESG 投資問 14-1、SDGs 問 26）

インパクト投資の認知度について、図表 1-1、図表 1-2 の通り「よく知っていた」が 1.2% 「まあ知っていた」が 6.6%であり、両者を合計しても 7.8%（ESG 投資は 10.5%）にとどまった。なお、これに「言葉だけは聞いたことはある」を加えても 21.1%（ESG 投資は 30.7%）であった。他方で ESG 投資については、近年言葉そのものは徐々に広まってきてはいるが一般国民の多くがまだ知らない中で、インパクト投資についての認知度が ESG 投資より低いというのは必ずしも不自然ではない。

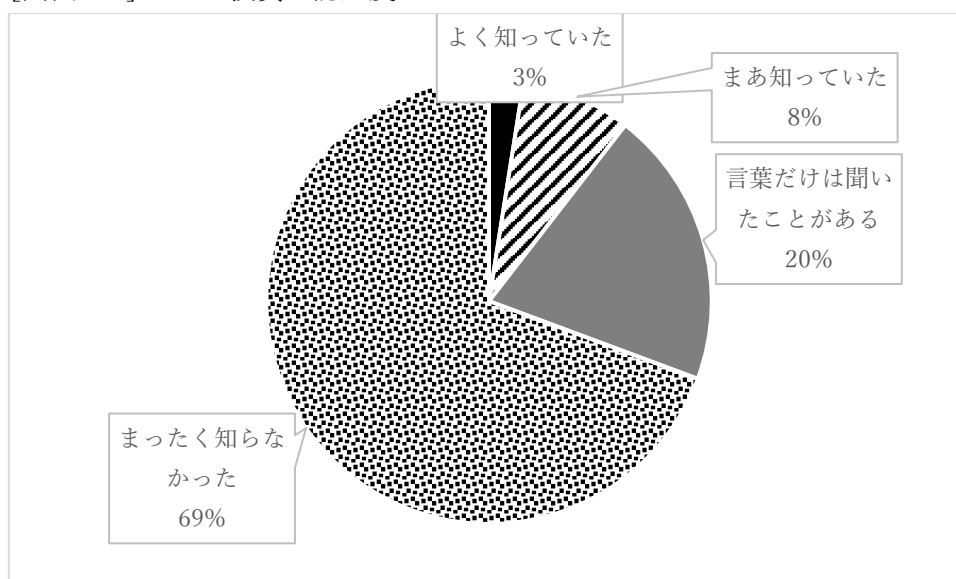
¹公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「年金と投資に関する意識調査結果」プレスリリース
(2022.8.25) <https://www.nensoken.or.jp/wp-content/uploads/20220825pressrelease.pdf>

*文中の意見または評価に関する部分は筆者の私見であり、所属機関のものではない

〔図表 1-1〕 インパクト投資の認知度

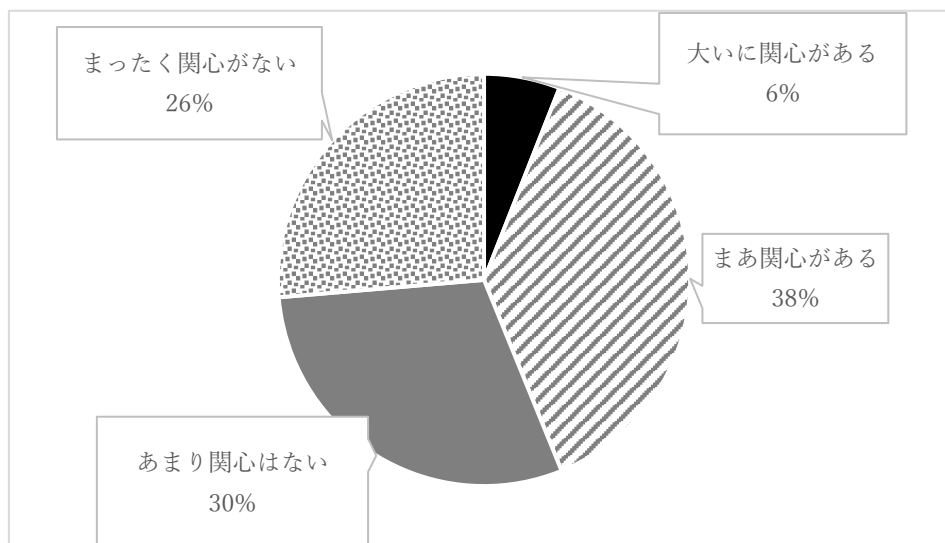


〔図表 1-2〕 ESG 投資の認知度



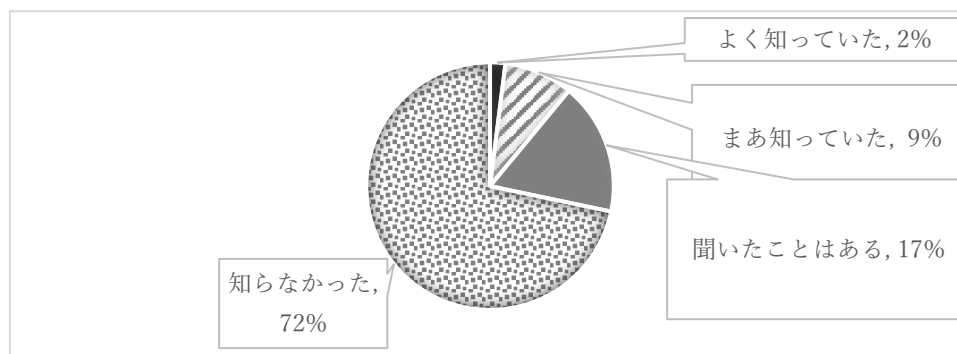
参考までに SDGs への関心を聞くと図表 1-3 の通り「大に関心がある」と「関心がある」を加えると 43.4%となった。

[図表 1-3]SDGs への関心

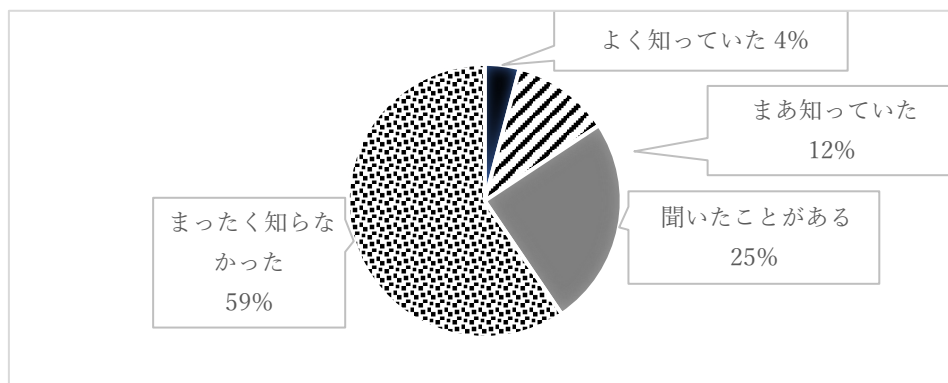


男女別にインパクト投資の認知度に関して見ると、図表 1-4 と図表 1-7 の通り、男性の方が女性よりも認知度の点で大きく上回っている。**男性に限ると、「よく知っている」と「まあ知っている」の合計が 11.0%（図表 1-5 の通り ESG 投資は 15.7%）に対し、女性は 4.8%（ESG 投資は 5.6%）であった。**男性のインパクト投資の認知度は ESG 投資の 2/3 程度しかないのに対して女性の場合は両者の認知度にさほど違いがないことがわかる。

[図表 1-4] インパクト投資の認知度 男性

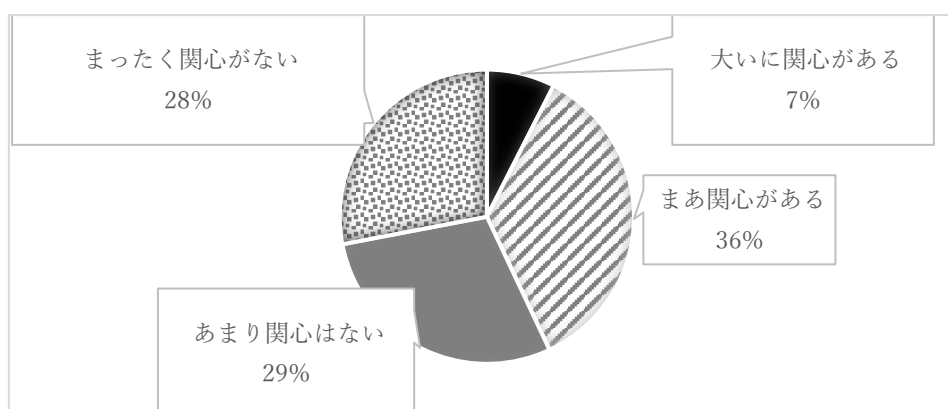


〔図表 1-5〕 ESG 投資の認知度 男性

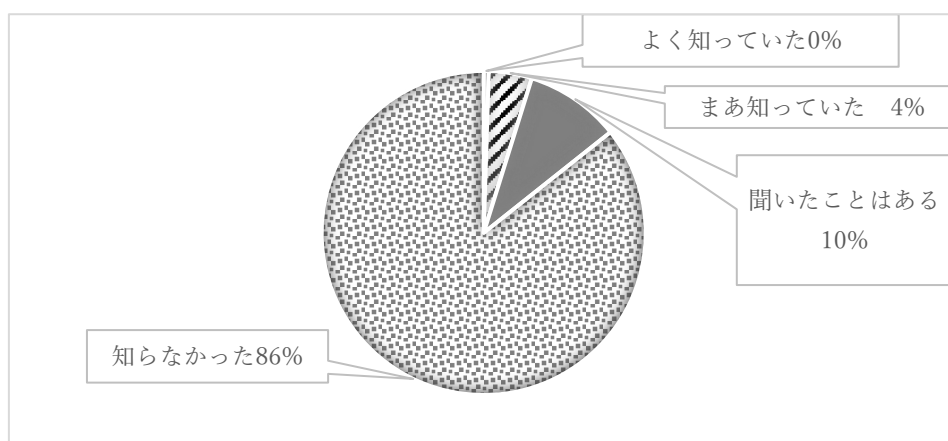


SDGs への関心度合いでは図表 1-6 と図表 1-9 の通り、男性（43.0%）と女性（43.9%）と、ほぼ同じなのが興味深い。SDGs への関心度合いがインパクト投資や ESG 投資に対して高い背景には、女性に関心を持っているということがある。

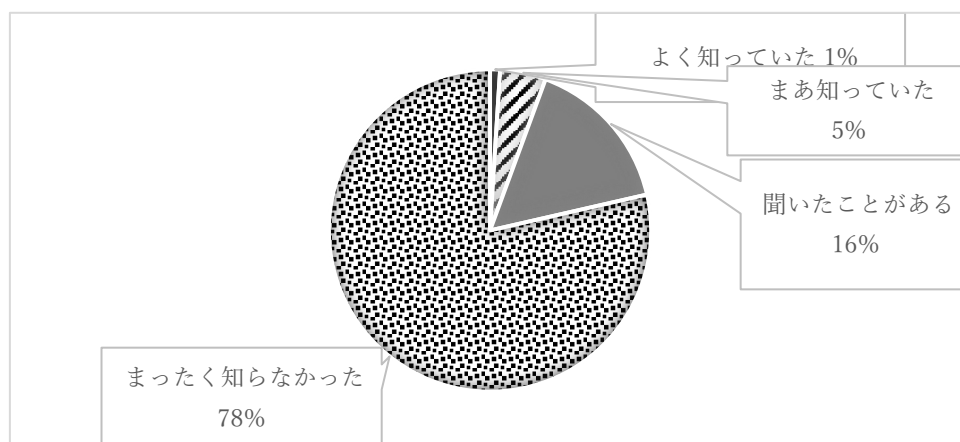
〔図表 1-6〕 SDGs への関心 男性



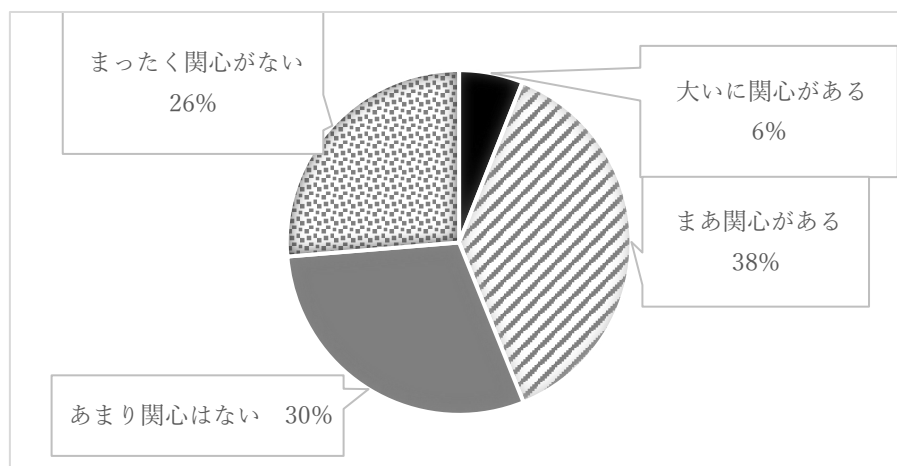
〔図表 1-7〕 インパクト投資の認知度 女性



〔図表 1- 8〕 ESG 投資の認知度 女性

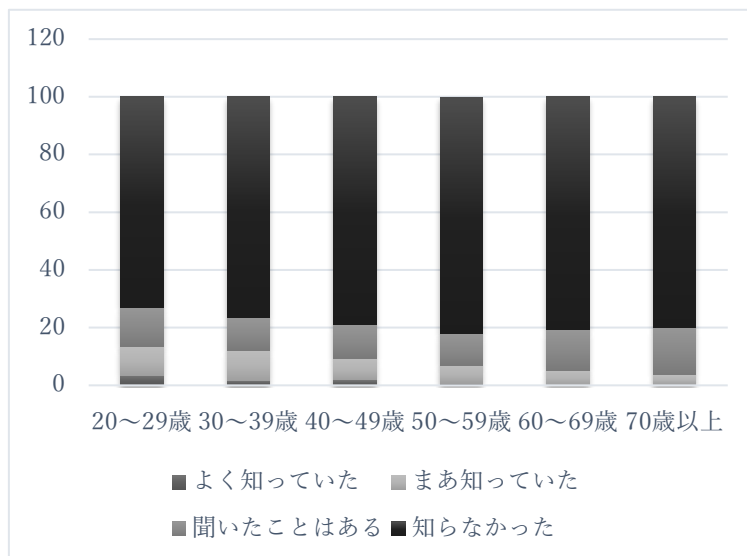


〔図表 1- 9〕 SDGs への関心 女性

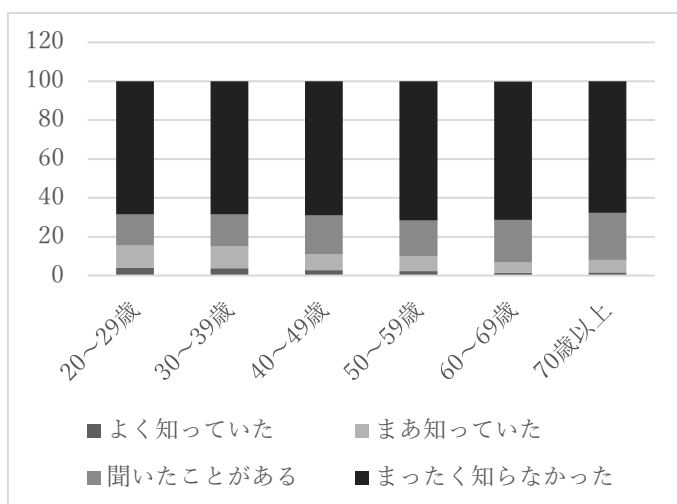


次に年齢別にインパクト投資を「よく知っている」と「まあ知っている」の合計を比較すると、図表 1-10、図表 1-11 の通り、20 歳代では 13.5%（ESG 投資は 15.5%）、30 歳代で 12.2%（ESG 投資は 15.0%）なのに対して 60 歳代で 5.3%（ESG 投資は 6.8%）、70 歳以上ではわずか 3.7%（ESG 投資は 8.0%）にとどまっており、若者の方が高齢者より上回っている。他方、SDGs に対する関心度合いでは図表 1-12 の通り、20 歳代が 38.9%なのに対して 70 歳以上が 57.0%と逆に高齢者の方が大きく上回っている。

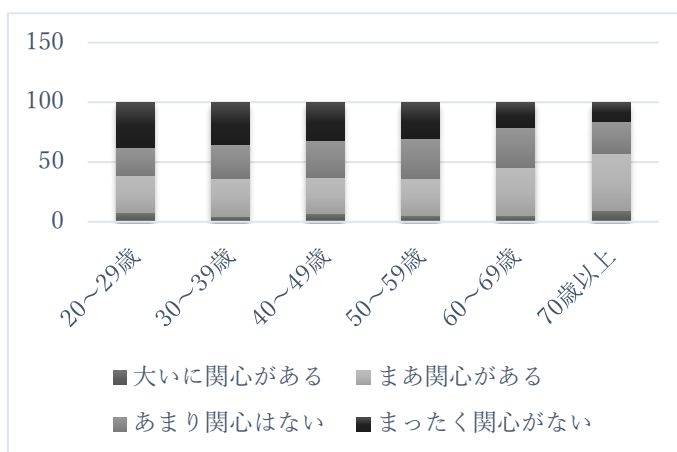
〔図表 1-10〕 インパクト投資の認知度 年齢別



〔図表 1-11〕 ESG 投資の認知度 年齢別



〔図表 1-12〕 SDGs への関心 年齢別



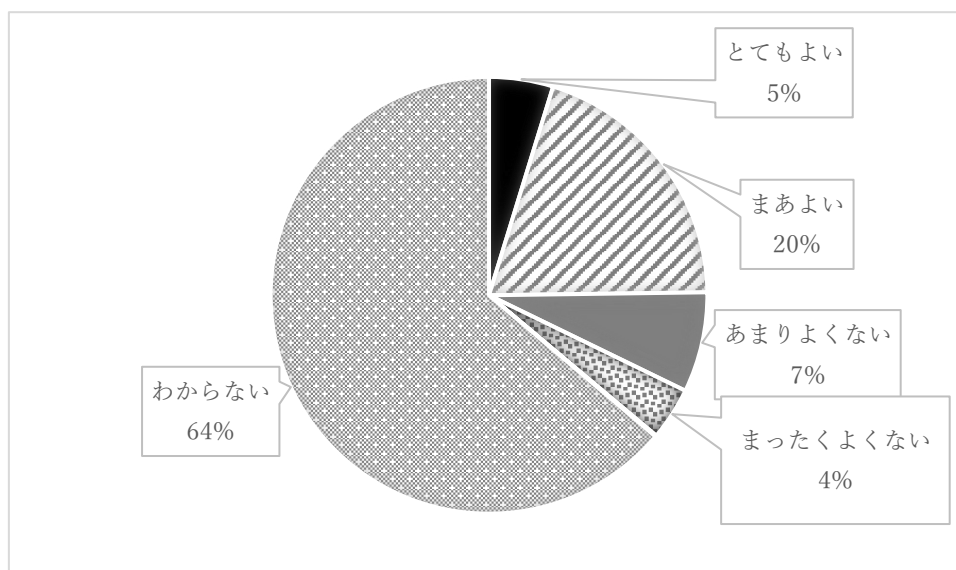
3 つ目に、学歴別にインパクト投資を「よく知っている」と「まあ知っている」の 合計を比較すると、高学歴者で 11.5%（ESG 投資は 16.4%）なのに対して高学歴者以外ではわずかに 5.1%（ESG 投資は 6.2%）であった。学歴別に認知度で大きな差異が認められるのは予想されたところではあるが、高学歴者以外の認知度で ESG 投資とインパクト投資にそれほど差異がない。SDGs については高学歴者で 47.3%に対し、高学歴者以外でも 40.7%と、それほど両者で差異はなかった。

4 つ目に、職業別にインパクト投資を「よく知っている」と「まあ知っている」の 合計を比較すると、正規で 16.0%（ESG 投資は 19.6%）非正規で 5.1%（ESG 投資は 6.4%）、自営等で 9.6%（ESG 投資は 16.2%）なのに対して学生・無職ではわずか 3.0%（ESG 投資は 5.2%）であった。正規と非正規との間に大きな差があり、また、学生・無職の認知度の低さが際立っている。SDGs については正規で 44.4%、非正規で 38.9%、自営等で 36.6%、学生・無職では 46.0%だった。

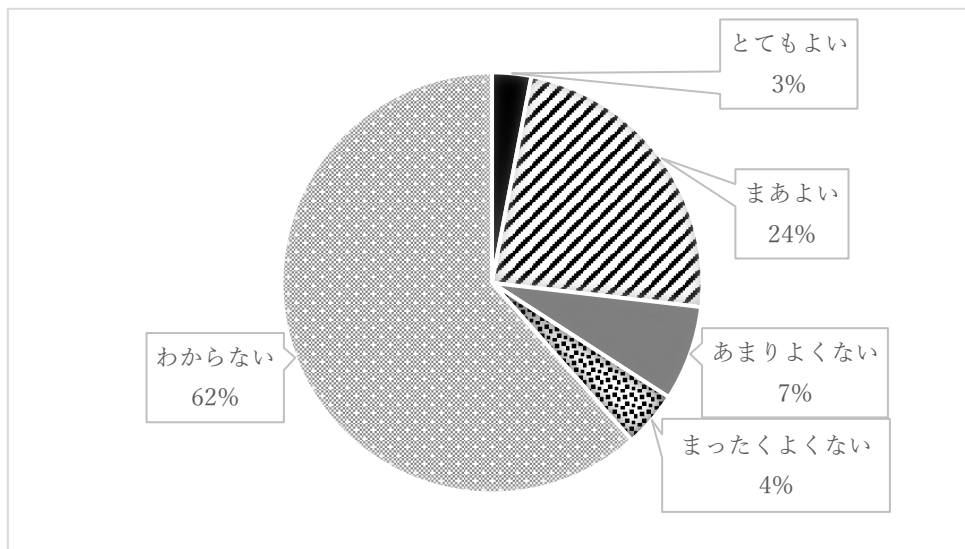
1-2 インパクト投資についての考え（問 27-2 と ESG 投資は問 19-2）

インパクト投資に対する考え方に関して見ると、図表 1-13、図表 1-14 の通り、「とてもよい」と「よい」の合計が 24.7%（ESG 投資は 26.8%）であった。逆に「あまりよくない」と「まったくよくない」の合計は 11.3%（ESG 投資は 11.6%）であった。肯定派も否定派もインパクト投資と ESG 投資との差は認知度の差に比べると小さい。ただ、インパクト投資で 63.8%（ESG 投資は 61.5%）とほぼ同じおよそ 2/3 の回答者が「わからない」と回答していることには留意が必要である。

[図表 1-13] インパクト投資への考え

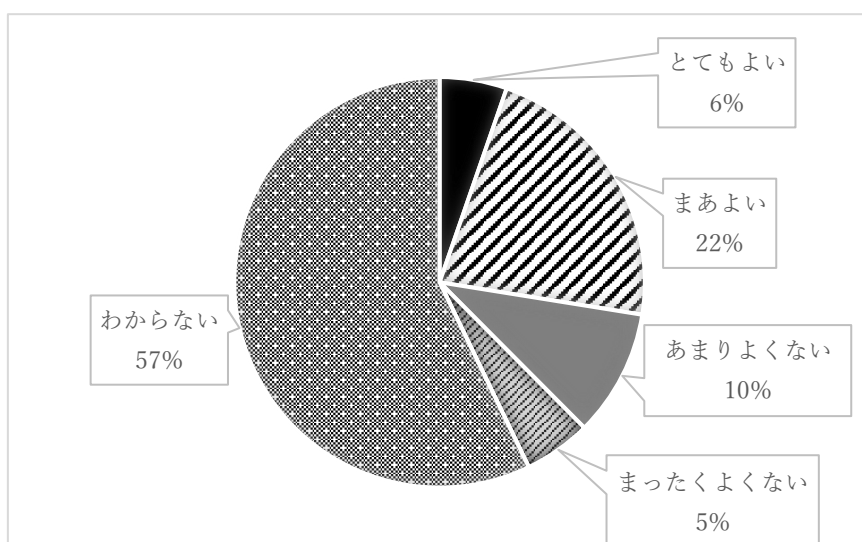


[図表 1-14] ESG 投資への考え

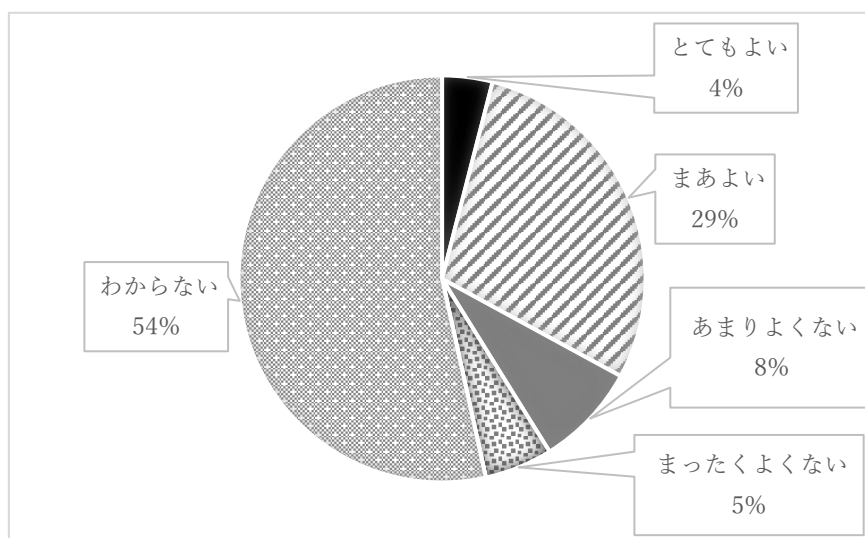


男女別にインパクト投資に対する考え方に関して見ると、男性の方が女性より肯定的な考えを持つ人の比率では上回っており、その男女差は ESG 投資に比べると小さい。男性に限ると、図表 1-15 図表 1-16 の通り、「とてもよい」と「よい」の 合計が 27.5%（ESG 投資は 32.9%）に対し、図表 1-17、図表 1-18 の通り、女性は 22.2%（ESG 投資は 21.2%）であった。逆に「あまりよくない」と「まったくよくない」の合計は男性は 15.3%（ESG 投資は 13.6%）に対し、女性は 7.6%（ESG 投資は 9.6%）であった。女性でインパクト投資に否定的な比率は男性の半分である。

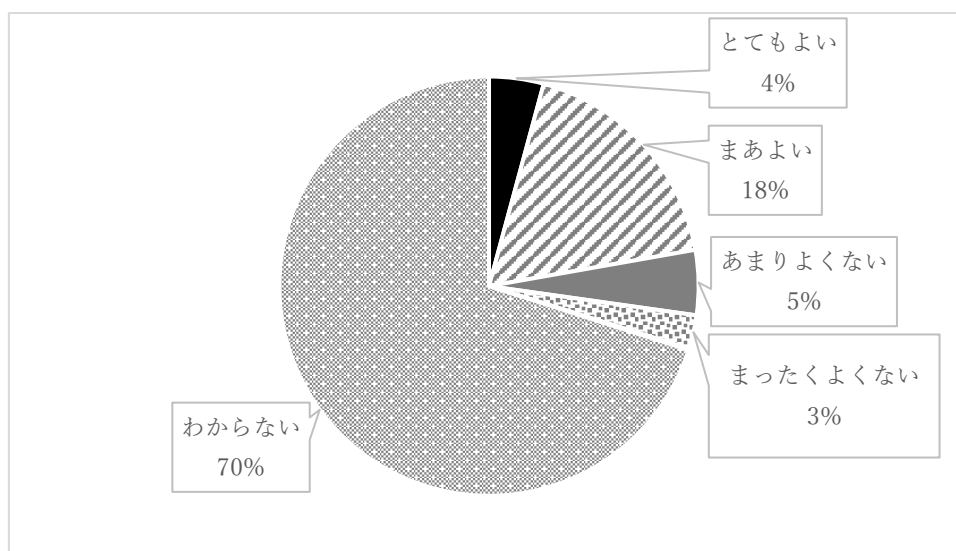
[図表 1-15] インパクト投資への考え 男性



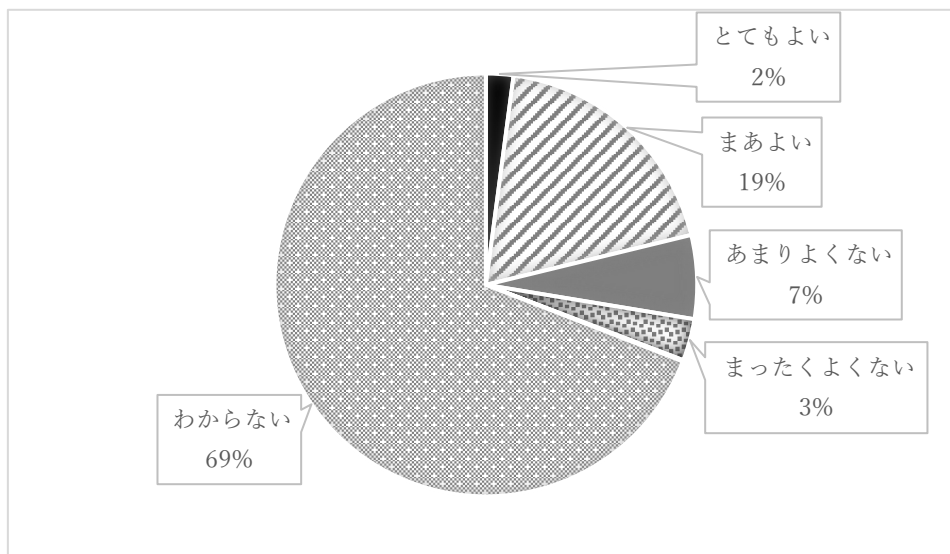
[図表 1-16] ESG 投資への考え 男性



[図表 1-17] インパクト投資への考え 女性

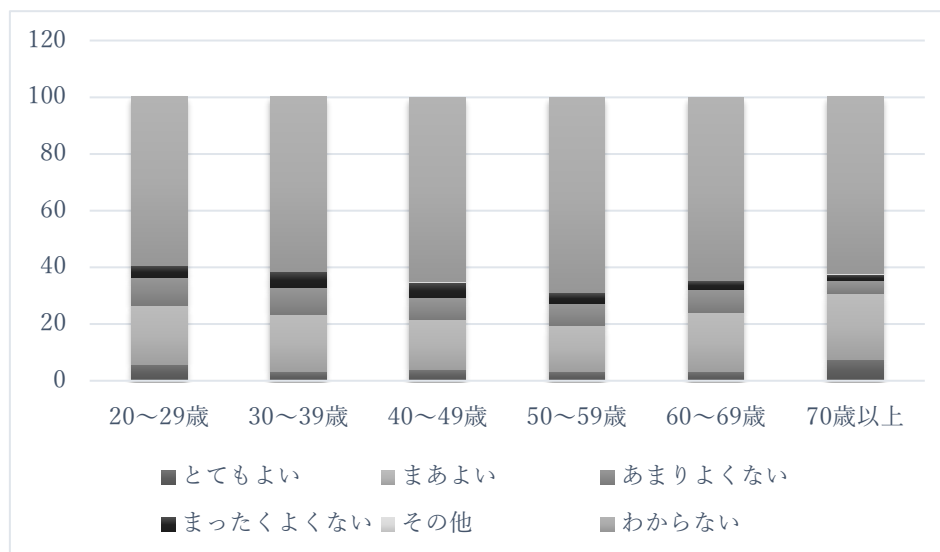


[図表 1-18] ESG 投資への考え 女性

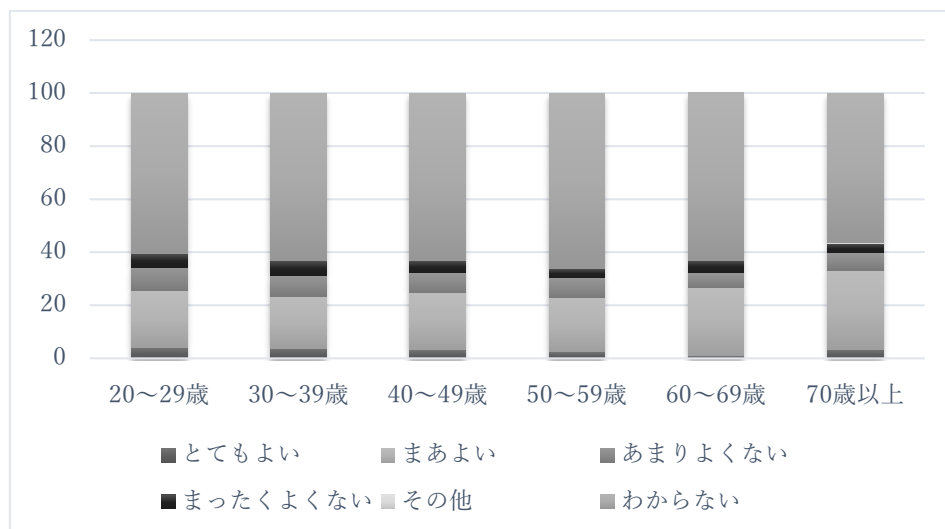


年齢別にインパクト投資に対する考え方に関して見ると、図表 1-19、図表 1-20 の通り、肯定的な考えを持つ人の比率は、若年層の 20 代 26.7% (ESG 投資は 25.5%)、30 代 23.3% (ESG 投資は 23.5%) と高齢層の 60 代 24.1% (ESG 投資は 26.6%)、70 歳以上 30.7% (ESG 投資は 33.3%) よりも、40 代 21.5% (ESG 投資は 24.7%)、50 代 19.5% (ESG 投資は 22.8%) の方が少ない。ESG 投資でも肯定的な考えを持つ人の比率が働き盛り世代で若者や高齢者より低いのは同様である。

[図表 1-19] インパクト投資への考え 年齢別



[図表 1-20] ESG 投資への考え 年齢別



学歴別にインパクト投資に対する考え方に関して見ると、高学歴者 29.4%（ESG 投資は 32.0%）の方が高学歴者以外 21.5%（ESG 投資は 23.1%）より高い。両者の差はインパクト投資の方が ESG 投資に比べるとやや小さい。

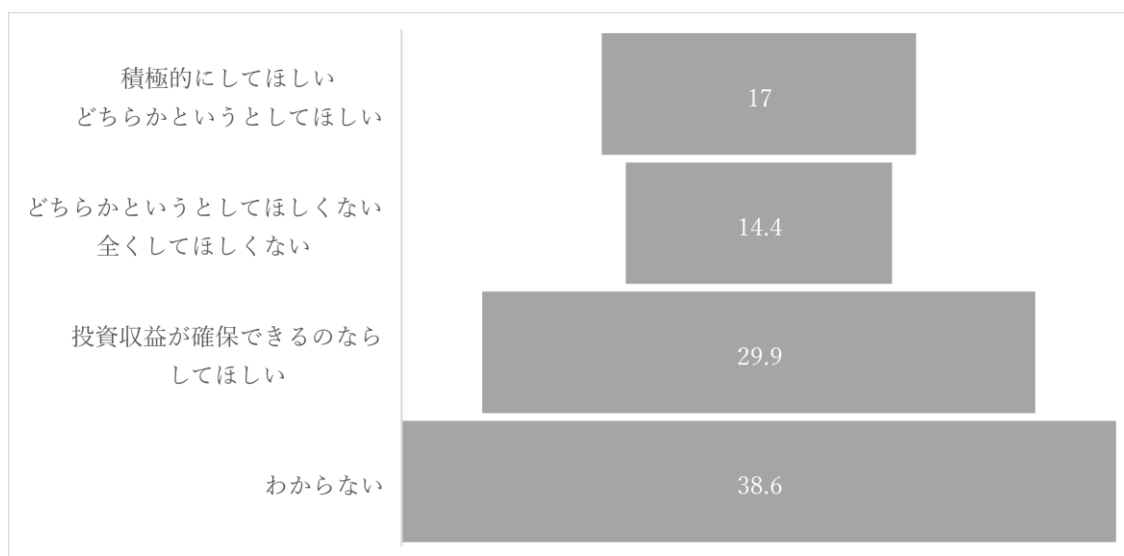
職業別にインパクト投資に対する考え方に関して見ると、正規 27.8%（ESG 投資は 32.3%）、非正規 20.3%（ESG 投資は 22.3%）、自営等 22.5%（ESG 投資は 26.6%）学生・無職 25.2%（ESG 投資は 25.3%）となった。インパクト投資に対する考え方は ESG 投資に比べると職業によってその差は大きくない。

1-3 積立金で、環境問題や社会問題の解決を考慮することについて

1-3-1 公的年金（問 27_3_1、ESG 投資は問 21）

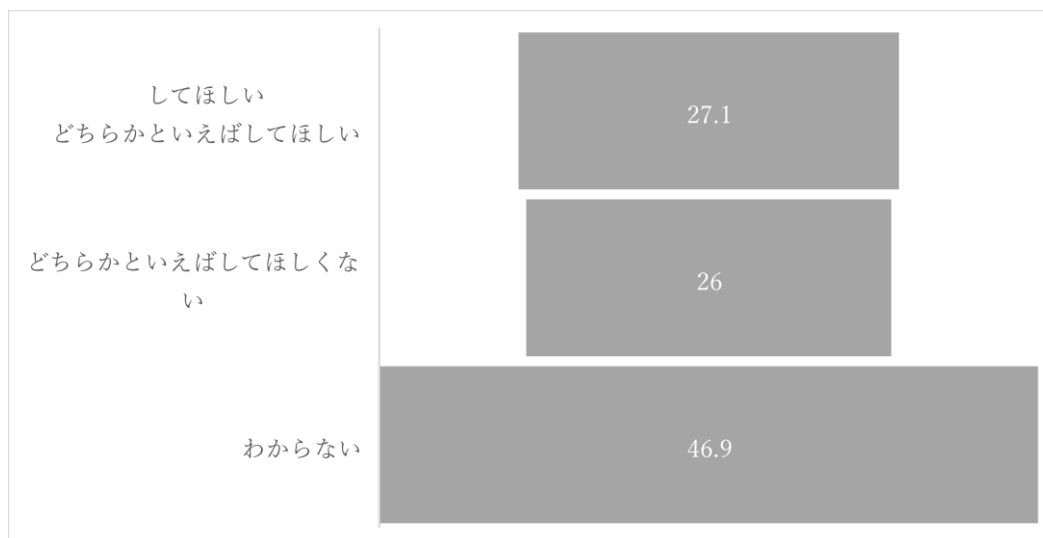
インパクト投資の文脈で、公的年金の積立金で環境問題や社会問題の解決を考慮することについて、図表 1-21 の通り、「積極的にしてほしい」と「どちらかというとしてほしい」を合わせると 17.0%である。逆に「どちらかというとしてほしくない」と「全くしてほしくない」の合計は 14.4%であり、肯定派の方が否定派を 2.6%ほど上回っている。公的年金によるインパクト投資について「投資収益が確保できるのなら、してほしい」は 29.9%である。「わからない」が 38.6%いる。

〔図表 1-21〕 公的年金の積立金による環境問題や社会問題の解決の考慮



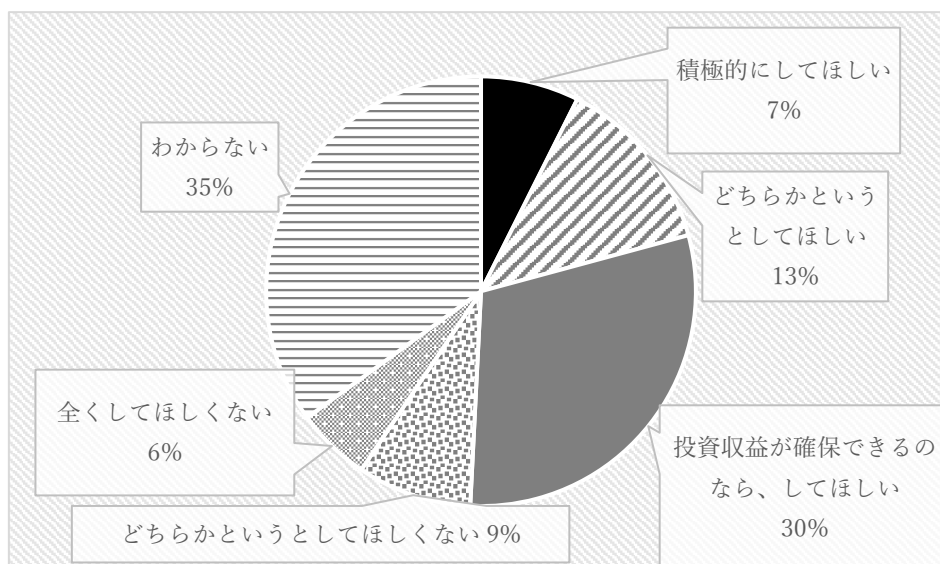
図表 1-22 の通り、公的年金による ESG 投資について「してほしい」と「どちらかといえどしてほしい」を足すと 27.1%であるのに対し「どちらかというとしてほしくない」と「まったくしてほしくない」を足すと 26.0%で、ESG 投資について肯定派の方が否定派を 1.1%上回っている。「わからない」が 46.9%いる。なお、ESG 投資については「投資収益が確保できるのなら、してほしい」という設問がないが、それは ESG 投資がそもそも、投資収益確保が前提になった投資だからである。しかしそのために、「投資収益が確保できるのなら、してほしい」を勘案したインパクト投資と ESG 投資との比較は出来なくなっていることには留意が必要である。

[図表 1-22] 公的年金による ESG 投資

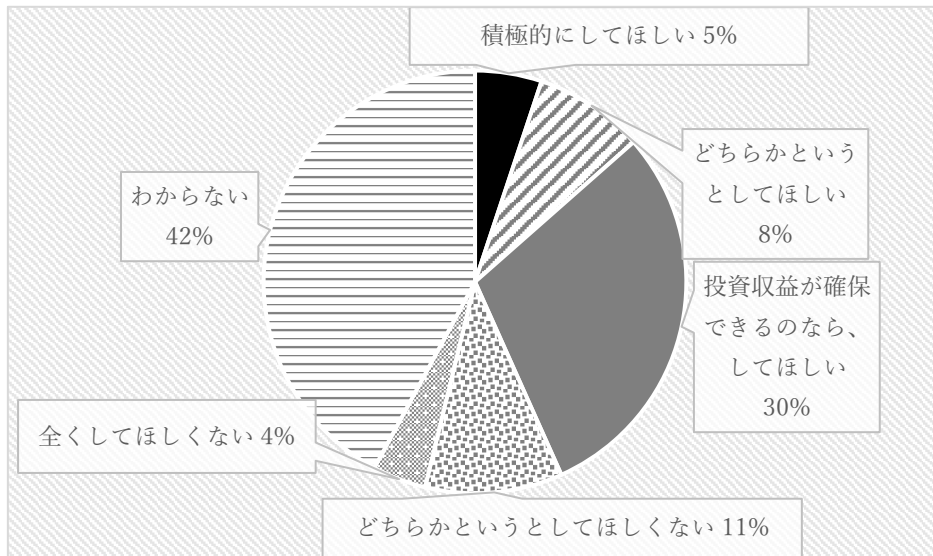


男女別に公的年金によるインパクト投資について見ると図表 1-23、図表 1-24 の通り、「積極的にしてほしい」と「どちらかというとしてほしい」を合わせると男性は 20.8%、女性は 13.5%と男性の方が上回っている。逆に「どちらかというとしてほしくない」と「全くしてほしくない」の合計は男性が 14.2%、女性が 14.6%とほぼ同じである。「投資収益が確保できるのなら、してほしい」は男性で 30.0%、女性は 29.8%となっている。

[図表 1-23] 公的年金の積立金による環境問題や社会問題の解決の考慮 男性

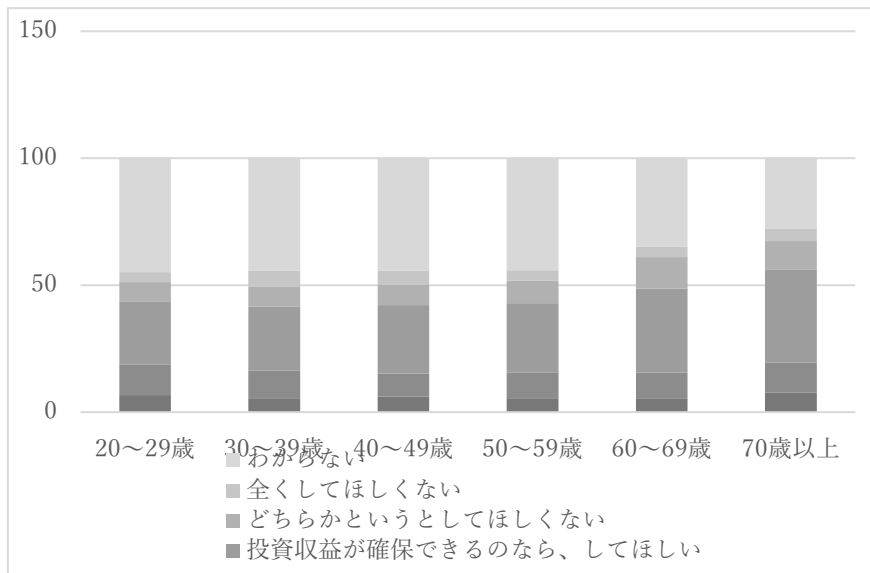


[図表 1-24] 公的年金の積立金による環境問題や社会問題の解決の考慮 女性



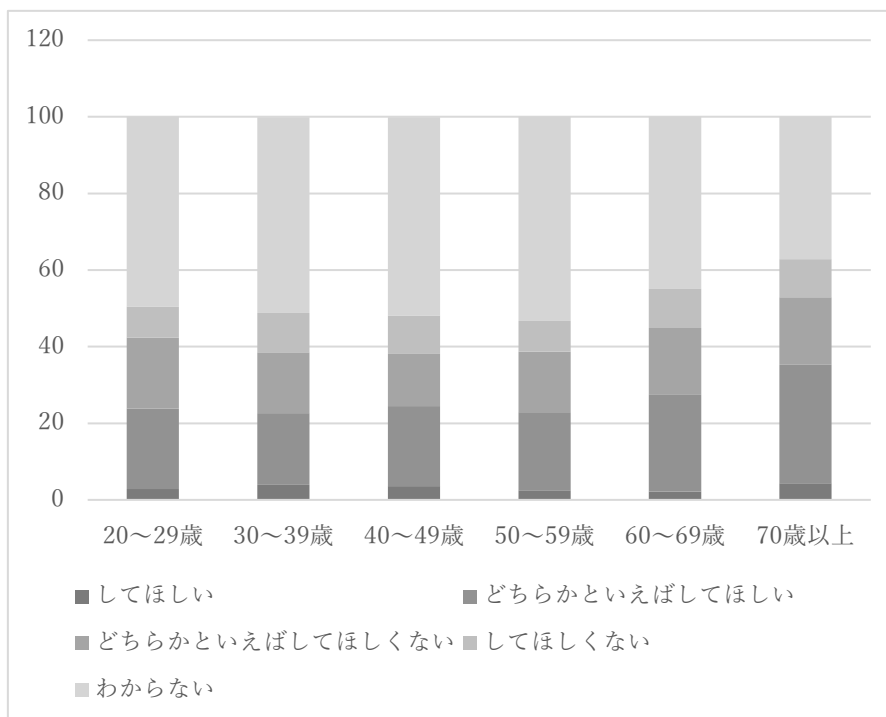
年齢別に公的年金のインパクト投資について肯定的な考えを持つ人の比率を比べると、図表 1-25 の通り、若年層の 20 代 18.8%、30 代 16.5%、高齢層の 70 歳以上 19.6%よりも、40 代 15.2%、50 代 15.7%の方が少ない。「投資収益が確保できるのなら、してほしい」は若年層の 20 代 24.9%、30 代 25.0%、40 代 27.0%、50 代 27.2%、60 代 33.2%、70 歳以上 36.4%となっており、高齢層がかなり多い。

[図表 1-25] 公的年金によるインパクト投資 年齢別



公的年金による ESG 投資について年齢別に見ると、図表 1-26 の通り、20 代 23.8%、30 代 22.6%、40 代 24.5%、50 代 22.9%、60 代 27.4%、70 歳以上 35.3%とインパクト投資と異なり、働き盛り世代の支持も若者とあまり変わらないが、高齢になってくると肯定派が増える傾向にある。

[図表 1-26] 公的年金による ESG 投資 年齢別



学歴別にインパクト投資について肯定的な考えを持つ人の比率を調べると**高学歴者が 18.4%、高学歴者以外が 16.1%だった。**

公的年金による ESG 投資について学歴別に見ると、肯定的な回答は高学歴者が 30.5%、高学歴者以外が 24.7%だった。

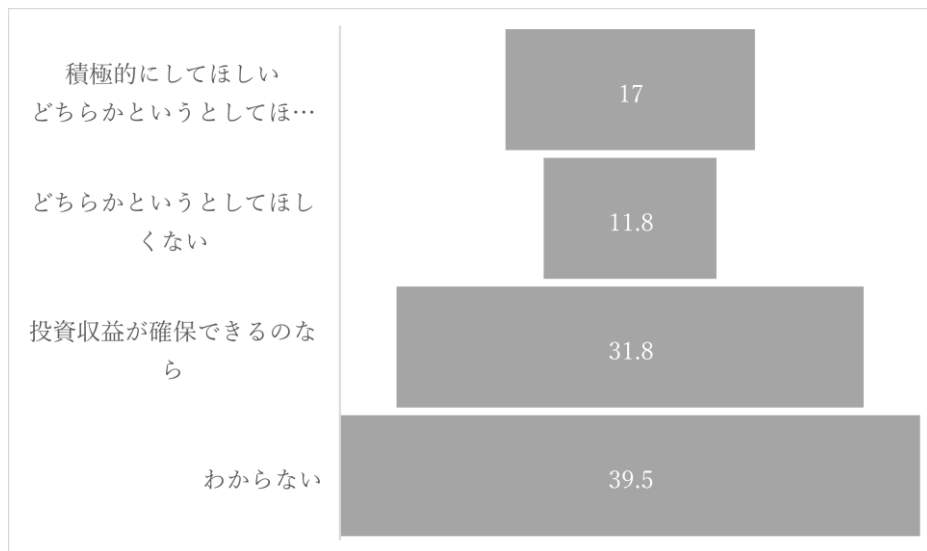
職業別に公的年金のインパクト投資について肯定的な考えを持つ人の比率を比べると、正規が 22.7%、非正規が 12.6%、自営等が 17.3%、学生・無職が 15.2%だった。

公的年金による ESG 投資について職業別に見ると、肯定的な回答は正規が 30.7%、非正規が 22.0%、自営等が 27.4%、学生・無職が 27.1%だった。

1-3-2 企業年金（問 27_3_2、ESG 投資は問 23）

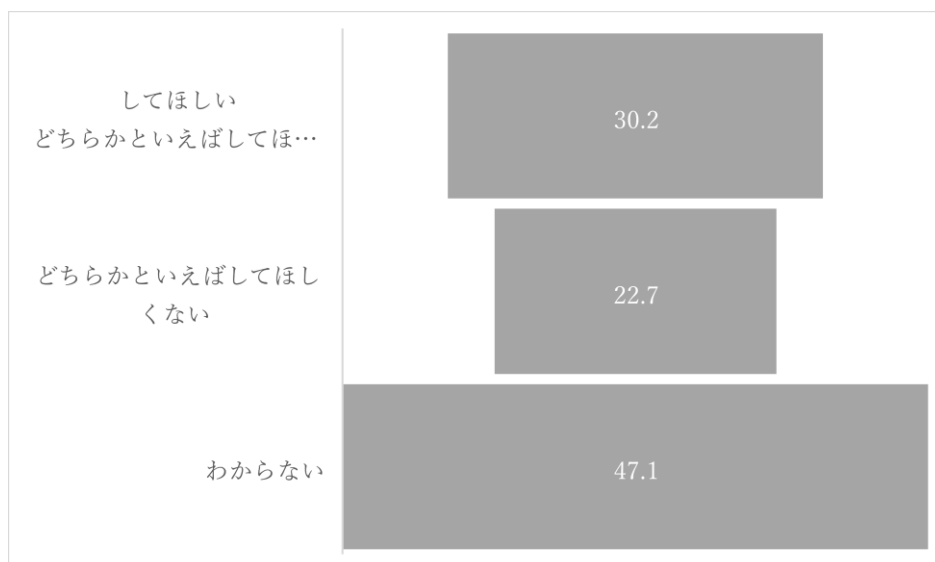
インパクト投資で、企業年金の積立金で環境問題や社会問題の解決を考慮することについて、図表 1-27 の通り、「積極的にしてほしい」と「どちらかというとしてほしい」を合わせると 17.0%である。逆に「どちらかというとしてほしくない」と「全くしてほしくない」の合計は 11.8%であり、肯定派の方が否定派を上回っている。企業年金によるインパクト投資について「投資収益が確保できるのなら、してほしい」31.8%となっている。

[図表 1-27] 企業年金によるインパクト投資



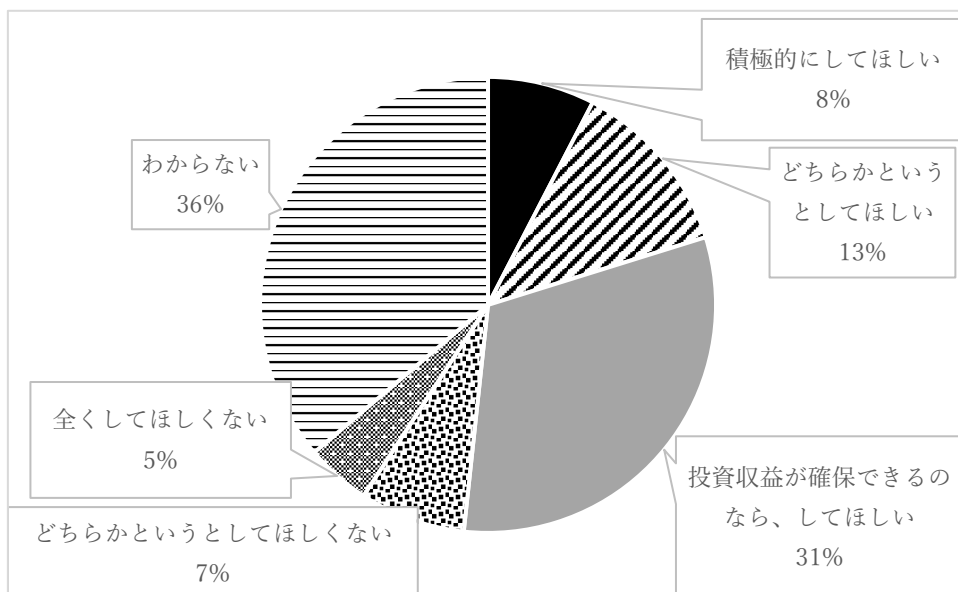
企業年金による ESG 投資については図表 1-28 の通り「してほしい」と「どちらかといえ
ばしてほしい」を足すと 30.2%であるのに対し「どちらかというとしてほしくない」と「ま
ったくしてほしくない」を足すと 22.7%で、ESG 投資についても肯定派の方が否定派を
7.5%上回っているが、公的年金の 1.1%差や確定拠出年金の 2.9%差よりもかなり大きい。

[図表 1-28] 企業年金による ESG 投資

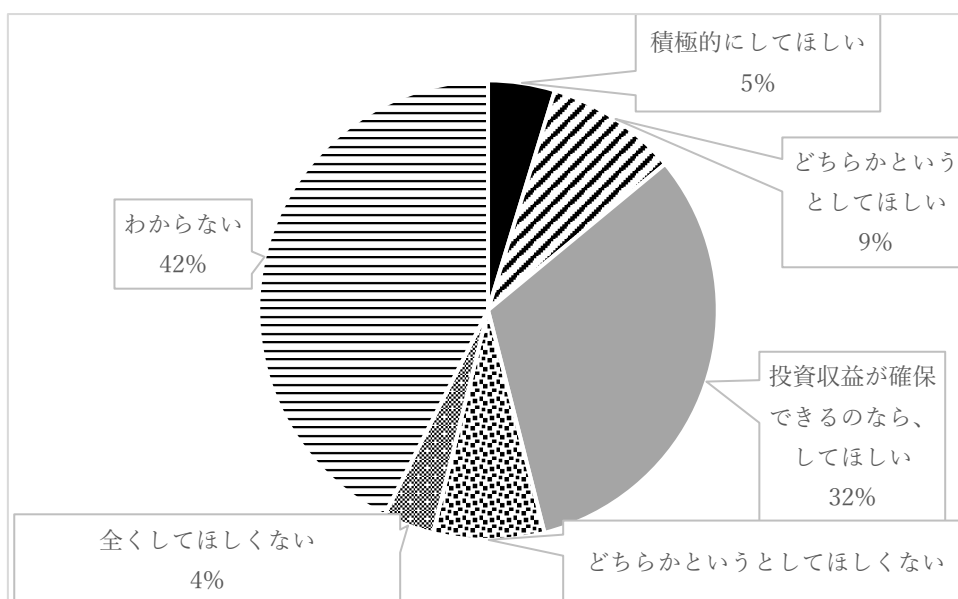


男女別に企業年金によるインパクト投資について見ると図表 1-29, 図表 1-30 の通り「積
極的にしてほしい」と「どちらかというとしてほしい」を合わせると男性は 20.2%、女性は
14.0%と男性が上回っている。逆に「どちらかというとしてほしくない」と「全くしてほし
くない」の合計は男性が 12.1%、女性が 11.4%である。「投資収益が確保できるのなら、し
てほしい」は男性は 31.5%、女性は 32.0%となっている。

[図表 1-29] 企業年金による環境問題や社会問題の解決の考慮 男性

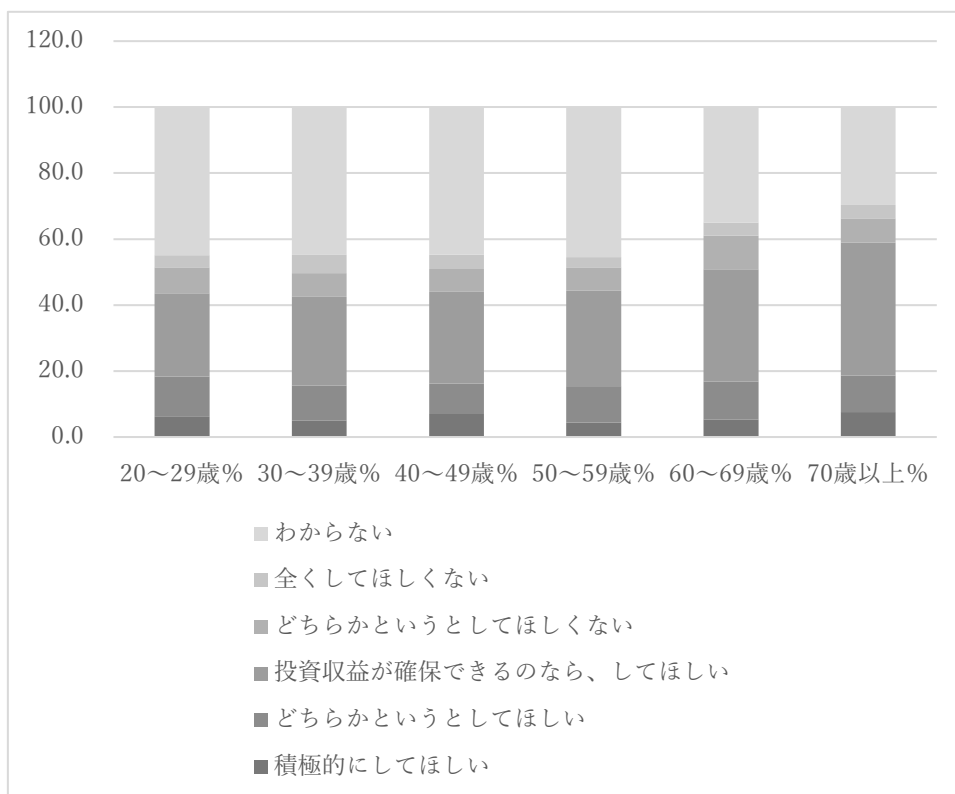


[図表 1-30] 企業年金による環境問題や社会問題の解決の考慮 女性

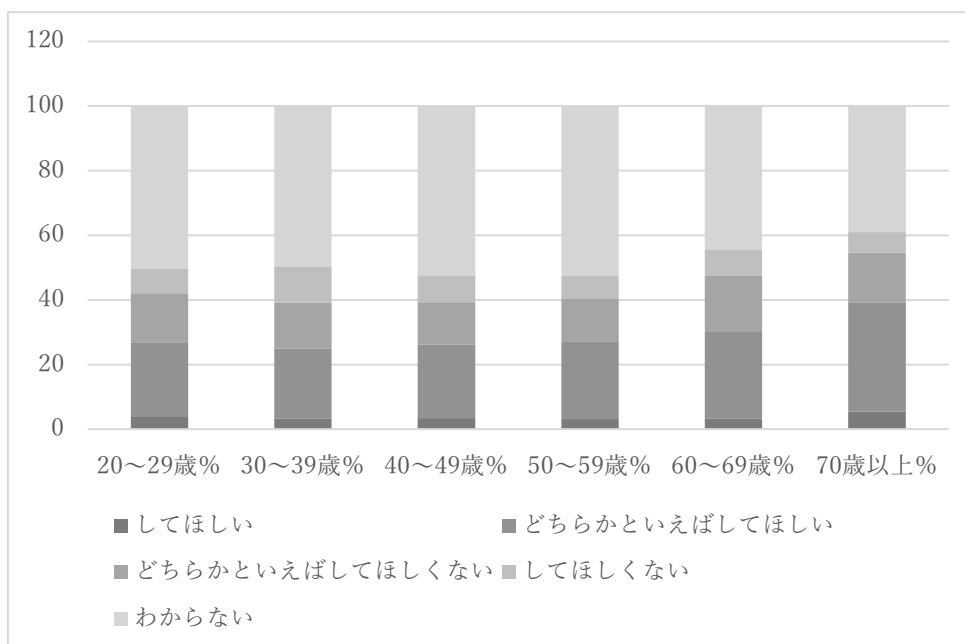


年齢別に企業年金のインパクト投資について肯定的な考えを持つ人の比率を比べると、図表 1-31 の通り、若年層の 20 代 18.3%、30 代 15.6%と 40 代 16.2%、50 代 15.4%、60 代 16.8%、70 歳以上 18.6%とそれほど年齢によるばらつきはない。「投資収益が確保できるのなら、してほしい」を足すと 20 代 25.3%、30 代 26.8%と 40 代 28.0%、50 代 28.9%、60 代 34.1%、70 歳以上 40.3%である。公的年金同様、高齢になるほどその比率が高くなっている。企業年金による ESG 投資について年齢別に見ると図表 1-32 の通り、20 代 26.9%、30 代 24.9%、40 代 26.2%、50 代 27.0%、60 代 30.1%、70 歳以上 39.1%とインパクト投資と同様、働き盛り世代も若者と変わらず高齢になってくると肯定派が増える傾向にある。

[図表 1-31] 企業年金による環境問題や社会問題の解決の考慮 年齢別



[図表 1-32] 企業年金による ESG 投資 年齢別



学歴別にインパクト投資について肯定的な考えを持つ人の比率を調べると**高学歴者が19.0%、高学歴者以外が15.5%だった。**

企業年金による ESG 投資について学歴別に見ると、肯定的な回答は高学歴者が34.1%、

高学歴者以外が 27.3%だった。

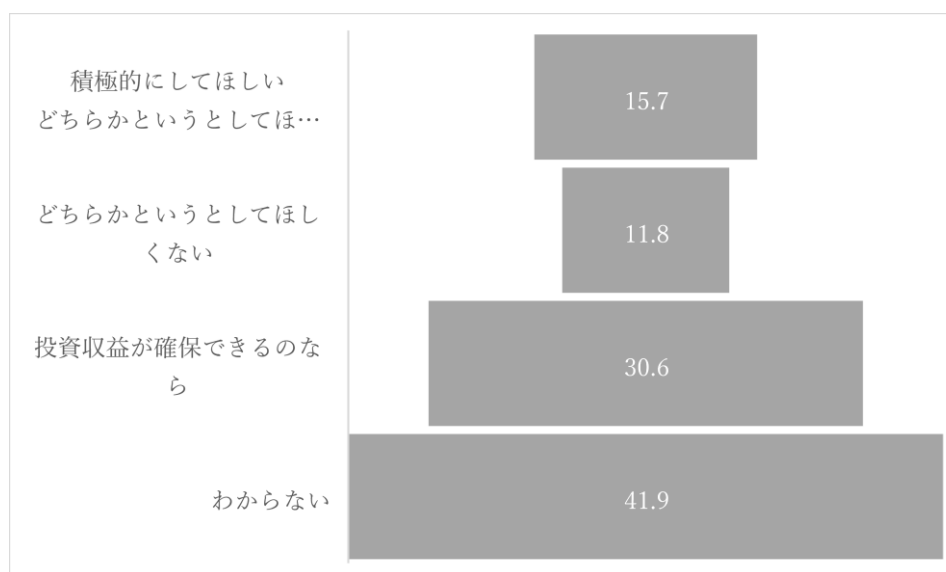
職業別に企業年金のインパクト投資について肯定的な考えを持つ人の比率を比べると、正規が 23.1%、非正規が 12.1%、自営等が 13.0%、学生・無職が 15.6%だった。

企業年金による ESG 投資について職業別に見ると、肯定的な回答は正規が 33.4%、非正規が 25.3%、自営等が 27.6%、学生・無職が 30.7%だった。

1-3-3 確定拠出年金（問 27_3_3、ESG 投資は問 24）

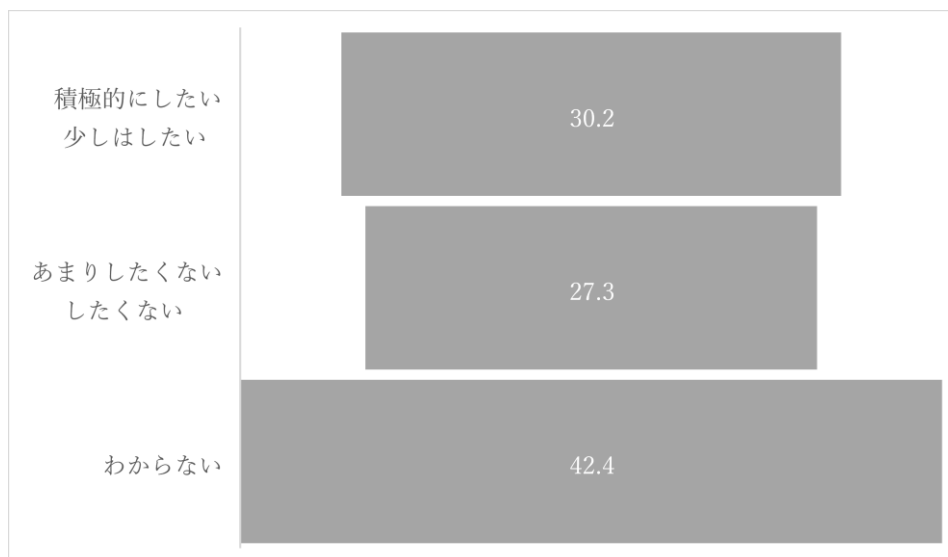
インパクト投資で、確定拠出年金の積立金で環境問題や社会問題の解決を考慮することについて図表 1-33 の通り、「積極的にしてほしい（したい）」と「どちらかというとしてほしい（したい）」を合わせると 15.7%である。逆に「どちらかというとしてほしくない」と「全くしてほしくない」の合計は 11.8%であり、肯定派の方が否定派を上回っている。確定拠出年金によるインパクト投資について「投資収益が確保できるのなら、してほしい」は 30.6%となっている。

〔図表 1-33〕 確定拠出年金によるインパクト投資



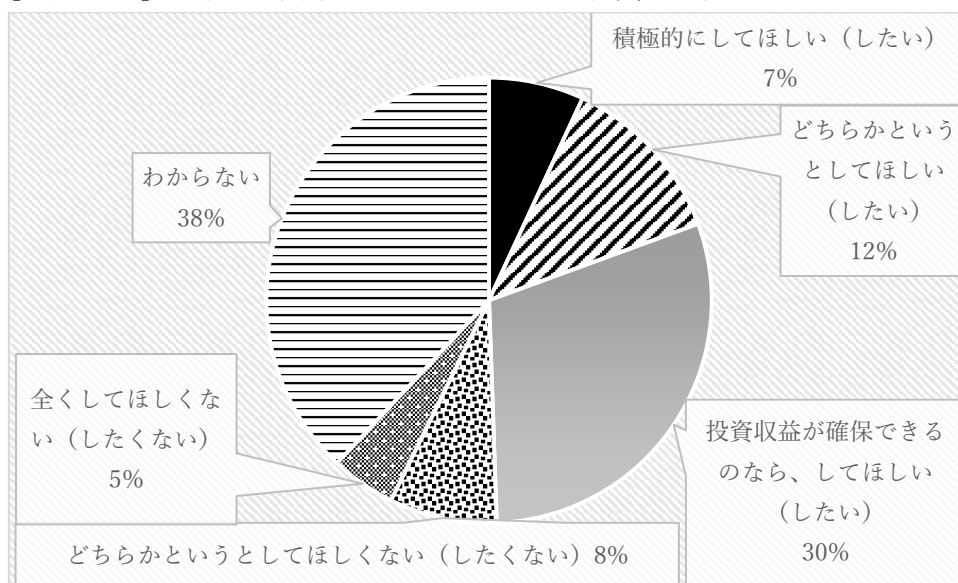
確定拠出年金によるE S G投資について図表 1-34 の通り、「積極的にしたい」と「少しはしたい」を足すと 30.2%なのに対し「どちらかというとしてほしくない（したくない）」と「まったくしてほしくない（したくない）」を足すと 27.3%でその差はわずか 2.9%にとどまる。確定拠出年金のように自らリスクを取る運用では、ESG 投資についての肯定派と否定派の差は、企業年金が 7.5%だったのに比べると非常にせばまっていることがわかる。

[図表 1-34]確定拠出年金による ESG 投資

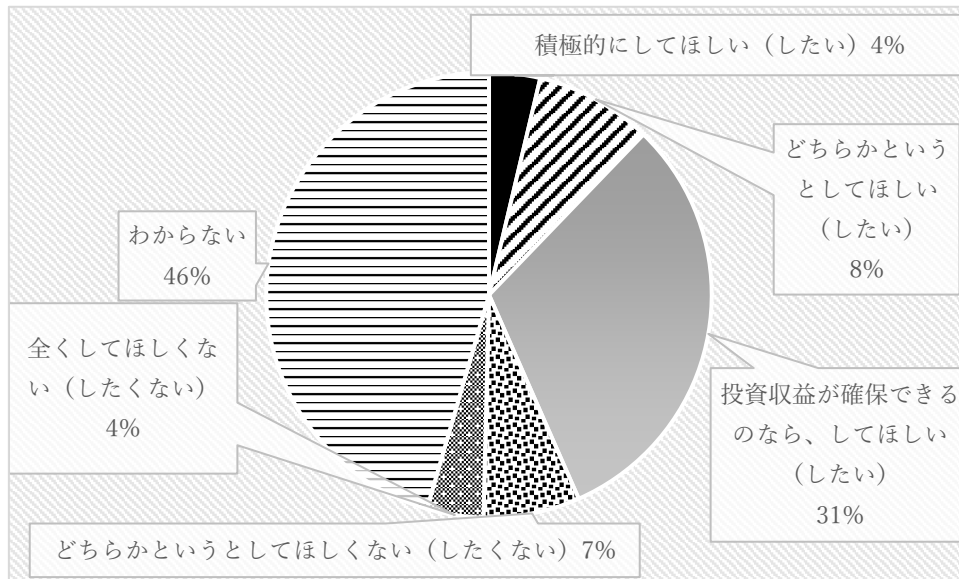


男女別に確定拠出年金によるインパクト投資について見ると図表 1-35、図表 1-36 の通り、「積極的にしてほしい」と「どちらかというとしてほしい」を合わせると男性は 19.4%、女性は 12.2%と男性が上回っている。逆に「どちらかというとしてほしくない」と「全くしてほしくない」の合計は男性が 12.5%、女性が 11.1%である。「投資収益が確保できるのなら、してほしい」は男性では 30.0%、女性は 31.2%となっている。

[図表 1-35] 確定拠出年金によるインパクト投資 男性

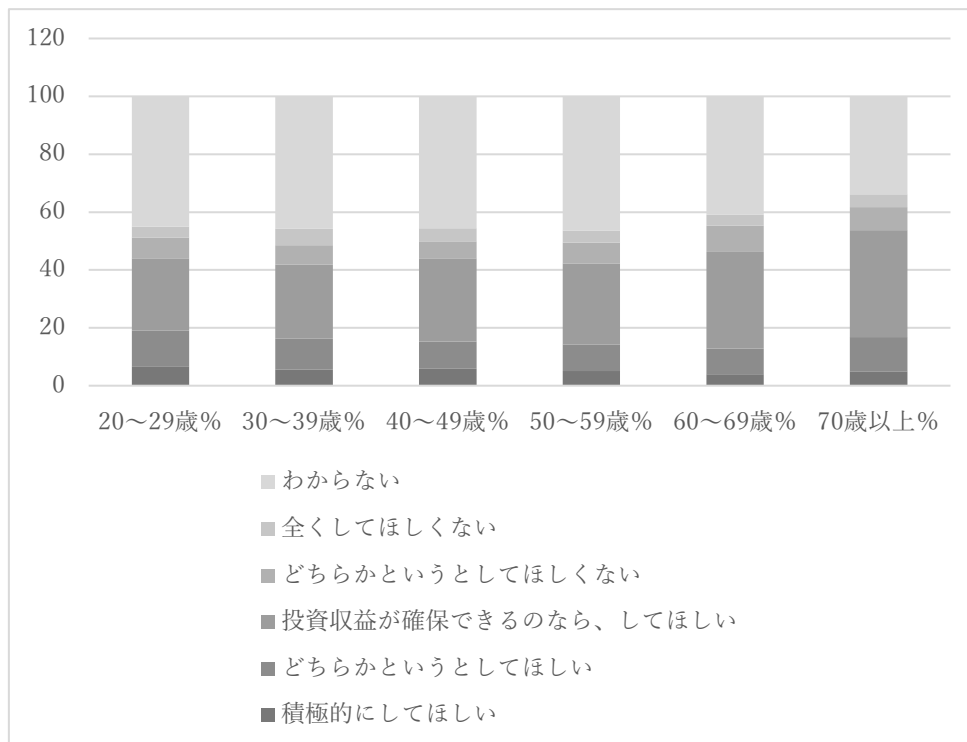


[図表 1-36] 確定拠出年金によるインパクト投資 女性



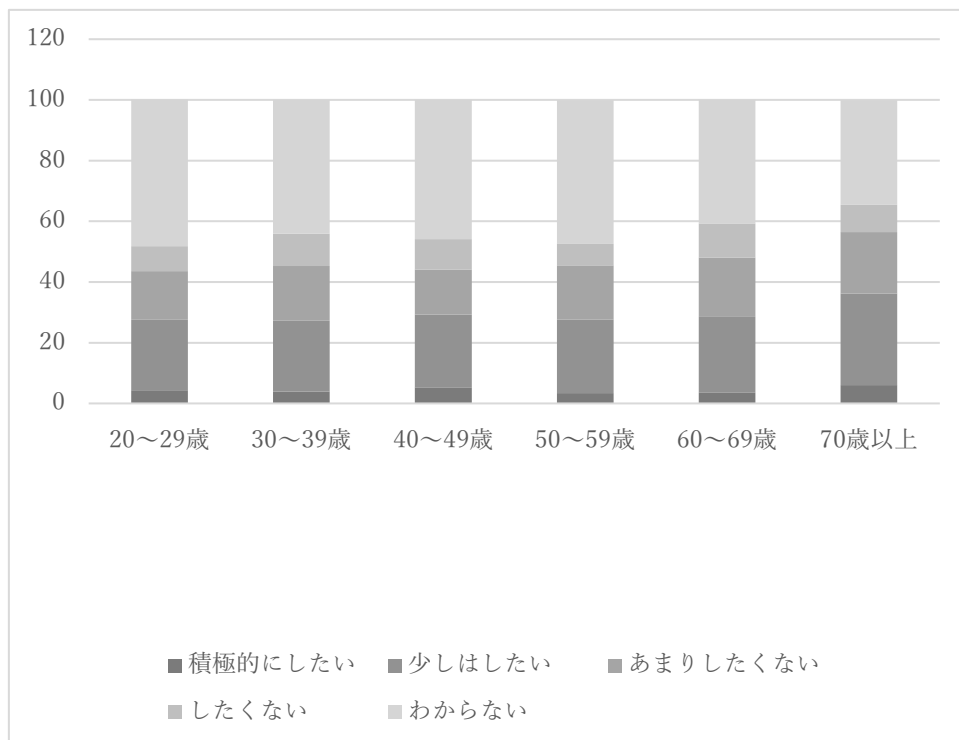
年齢別に確定拠出年金のインパクト投資について肯定的な考えを持つ人の比率を比べると、図表 1-37 の通り、若年層の 20 代 19.0%、30 代 16.2%と 40 代 15.3%、50 代 14.2%、60 代 12.8%、70 歳以上 16.8%とそれほど年齢によるばらつきはない。「投資収益が確保できるのなら、してほしい」は 20 代 25.0%、30 代 25.6%と 40 代 28.7%、50 代 28.1%、60 代 33.4%、70 歳以上 37.0%と公的年金、企業年金同様、年齢があがるにつれて増えている。

[図表 1-37] 確定拠出年金による環境問題や社会問題の解決の考慮 年齢別



確定拠出年金による ESG 投資について年齢別に見ると図表 1-38 の通り、20 代 27.5%、30 代 27.2%、40 代 29.2%、50 代 27.7%、60 代 28.5%、70 歳以上 36.2%とインパクト投資同様、働き盛り世代の支持も若者とあまり変わらず、高齢になってくると肯定派が増える傾向にある。

[図表 1-38] 確定拠出年金による環境問題や社会問題の解決の考慮 年齢別



学歴別にインパクト投資について肯定的な考えを持つ人の比率を調べると**高学歴者が 17.9%、高学歴者以外が 14.1%だった。**

確定拠出年金による ESG 投資について学歴別に見ると、肯定的な回答は高学歴者が 35.1%、高学歴者以外が 26.7%だった。

職業別に確定拠出年金のインパクト投資について肯定的な考えを持つ人の比率を比べると、正規が 22.5%、非正規が 10.9%、自営等が 14.9%、学生・無職が 13.4%だった。

確定拠出年金による ESG 投資について職業別に見ると、肯定的な回答は正規が 36.6%、非正規が 26.7%、自営等が 26.9%、学生・無職が 28.0%だった。

2. インパクト投資（及び、ESG 投資）への回答に対する考察

2-1 インパクト投資（及び、ESG 投資）の認知度

インパクト投資や ESG 投資の認知度が 1 割内外（「聞いたことがある」を加えてもインパクト投資で約 2 割、ESG 投資で約 3 割）であるのに比べると、SDGs は「大いに興味がある」と「関心がある」を足すと 4 割を超えており、インパクト投資や ESG 投資を遙かに上回る高い認知度を示している。2020 年度に小学校、2021 年度に中学校、そして 2022 年度には高等学校の学習指導要領が改訂されているが、そのキーワードの一つが「持続可能性」であり、これは SDGs と親和性が高いので自ずと教材に SDGs が頻繁に取上げられていることも影響していよう。

男女別にインパクト投資の認知度を見ると、男性の方が女性よりも認知度の点で大きく上回っているが、SDGs への関心度合いでは女性の方が男性よりやや高い。たとえば虹色バッジを付けている人が多いことにも現れているとおり、それだけ SDGs の方が、日常生活に入り込んでいるといえよう。

年齢別に見るとインパクト投資も ESG 投資も若い世代の方が認知度は高く、高齢になってくると下がっていることがわかる。いわゆる Z 世代やミレニアル世代ではインパクト投資と ESG 投資の認知度に差はさほどないが、高齢になってくると差が開いている。ところが SDGs に対する関心度合いでは逆で、20 歳代よりも 70 歳以上が大きく上回っている。

学歴別では高学歴の方が、また、職業別には正規の方が非正規よりも、インパクト投資も ESG 投資も認知度は高い。しかし、SDGs については学歴や職業に関わりなく、全般に高いという傾向が見られ、特に学生・無職が SDGs に極めて高い関心を示しているという結果が目を引く。

2-2 インパクト投資（含む、ESG 投資への設問）への考え方

インパクト投資や ESG 投資に対する考えを聞くと、インパクト投資に対しても ESG 投資に対してもおよそ 2/3 の回答者が「わからない」と回答しているが、肯定的な考えを持つ人は双方に対していずれも約四人に一人の割合であった。インパクト投資でも ESG 投資でも肯定的な考えを持つ人の占率は否定的な考えを持つ人の倍以上である。

男女別にインパクト投資と ESG 投資に対する考え方に関して見ると、いずれも肯定的な考えを持つ人の比率では男性の方が女性より上回っていた。

年齢別に聞くとインパクト投資を「とてもよい」「よい」と評価するかどうかについては、働き盛りといわれる世代より若者や老人からの支持をより多く集めていることがわかる。これは ESG 投資でも同様であるが、インパクト投資ほどの差異はない。

学歴別や職業別にインパクト投資に対する考え方に関して聞くと、高学歴で正規の方が肯定的な回答は多かった。

2-3 積立金で、環境問題や社会問題の解決を考慮することについて

年金の積立金で、環境問題や社会問題の解決を考慮するインパクト投資をすることについての回答で、公的年金、企業年金、確定拠出年金の三者において、肯定的な意見も否定的な意見もその比率にそれほど大きな差はなかった。肯定的から否定的な意見を差し引くと、公的年金（2.6%）、企業年金（5.2%）、確定拠出年金（3.9%）となった。いずれにおいてもどちらがよいかわからない、という回答が約 4 割あった。また投資収益が確保できるのならしてほしい、という意見が三者とも約 3 割あった。

ESG 投資については、公的年金で「してほしい」と「どちらかといえばしてほしい」の肯定派に対し「どちらかというとしてほしくない」と「まったくしてほしくない」の否定派の差は 1.1%であるのに対し、企業年金ではその差は 7.5%と大きく、確定拠出年金では 2.9%だった。

男女別に見ると、公的年金、企業年金、確定拠出年金の三者いずれにおいても、インパクト投資に肯定的な意見は、男性の方が女性より多かった。

年齢別に見ると、公的年金、企業年金、確定拠出年金の三者いずれにおいても、インパクト投資に肯定的な意見は、それほど年齢によるばらつきはないが、「投資収益が確保できるのなら、してほしい」の比率が、高齢になるにつれて上昇してくる傾向がある。ESG 投資についても高齢になってくると肯定派が増える傾向にあるのはインパクト投資と同様である

学歴別にインパクト投資に肯定的な考えを持つ人の比率を比べると、公的年金、企業年金、確定拠出年金の三者いずれにおいても、高学歴の方が高学歴者以外より多かった。ESG 投資においても同様であった。

職業別にインパクト投資に肯定的な考えを持つ人の比率を比べると、公的年金、企業年金、確定拠出年金の三者いずれにおいても、正規の方が非正規、自営等、学生・無職よりかなり多かった。ESG 投資においても同様であった。

以上